



報道発表資料

令和8年10月07日

人間環境大学環境科学部 講師 岡久雄二

豊橋総合動植物公園 動植物園長 高見一利

飯田市立動物園 園長 伊藤崇

一般社団法人野生生物生息域外保全センター 代表理事 本田直也

長野アカモズ保全研究グループ 代表 松宮裕秋

北海道大学地球環境科学研究所 准教授 先崎理之

絶滅危惧種アカモズの生息域外保全活動の経過について ～飼育下での初産卵と救護個体の試験放鳥の実施～

人間環境大学環境科学部フィールド生態学科岡久研究室では、豊橋総合動植物公園、飯田市立動物園、長野アカモズ保全研究グループ、北海道大学地球環境科学研究所、一般社団法人野生生物生息域外保全センター等と共同でアカモズ生息域外保全ワーキンググループを組織し、絶滅危惧種アカモズの生息域外保全活動に取り組んでいます。

2026年は長野県内における繁殖モニタリングで30つがいを確認しました。2025年の43つがいから大きく減少しており、野生個体群は依然として極めて危機的な状況にあります。

一方、生息域外保全では新たな進展が得られました。豊橋総合動植物公園では、飼育中のメス1羽が4卵を産卵し、初めて飼育下での産卵を確認しました。また、長野県内で部分捕食やカッコウによる托卵などにより放棄された20卵を保護し、このうち15卵を豊橋総合動植物公園、5卵を北海道の野生生物生息域外保全センターへ移送しました。その結果、計13羽が孵化し、4羽が巣立ちました。

さらに、野外で衰弱した雛4羽を保護・人工育雛し、全羽巣立たせることに成功しました。このうち1羽については、豊橋総合動植物公園で生餌採餌訓練、模型を用いた捕食者認識訓練を実施したのち長野県へ移送し、生息地においても訓練を継続し、8月9日に長野県内で試験放鳥を実施しました。放鳥後には発信機を用いて個体を追跡し、自力で採餌する様子や、野生のアカモズと合流して群れで行動する様子を確認しました。

これらの成果は、絶滅の危機に直面するアカモズの飼育下繁殖技術の確立と野生復帰に向けた重要な前進です。今後も、繁殖地における保全と生息域外保全を連携させながら、野生個体群の回復に向けた取組を進めていきます。



お問い合わせ先

・人間環境大学環境科学部フィールド生態学科 講師 岡久雄二 Tel 0564-48-7811(代)



報道発表資料

令和8年10月07日

(1) 経緯

人間環境大学環境科学部フィールド生態学科岡久研究室では、以前よりトキやシロハラサギ等の絶滅危惧種の生息域外保全と野生復帰について専門的見地からの分析と提言を行ってきました。

2023年より、当研究室が中心となって、環境省信越自然環境事務所、長野県、豊橋総合動植物公園、飯田市立動物園、長野アカモズ保全研究グループ、(社)野生生物生息域外保全センター、森林総合研究所、国立環境研究所、北海道大学地球環境科学研究院等が連携したアカモズ生息域外保全ワーキンググループを組織し、アカモズの安定的な存続を目指し、緊急避難的措置としての生息域外保全活動を開始いたしました。現在は、野生下の個体数が減少し続けている本州個体群の短期絶滅を回避することを目的として活動を続けています。2023年には、豊橋総合動植物公園において、世界で初めてアカモズの人工孵化・人工育雛に成功し、本年まで4年連続で成功しています。これにより、国内3施設において、計25羽のアカモズを分散飼育する体制を構築してきました。

(2) 2026年の生息域外保全活動の実施内容

- ・長野県内において部分捕食、巣の落下、托卵等により放棄された計4巣に残された計20卵の保護
- ・豊橋総合動植物公園における15卵の人工孵化・人工育雛
- ・野生生物生息域外保全センターにおける5卵の人工孵化・人工育雛
- ・豊橋総合動植物公園におけるペアリング、初産卵
- ・衰弱した雛4羽の保護・人工育雛
- ・育成個体の飼育下での生餌給餌、捕食者認識等の放鳥前訓練
- ・救護個体1羽の長野県での試験放鳥および発信機を用いた追跡
- ・豊橋総合動植物公園および飯田市立動物園等での一般公開および普及イベントの実施

(3) 今後の生息域外保全の予定

現在飼育している個体をファウンダー（始祖個体）として飼育下での繁殖を実施することで、飼育個体群を確保し、アカモズの短期的な絶滅の回避を目指します。また、救護個体を放鳥することで、野生個体群の減少を抑制します。さらに、飼育下で生まれた個体を野生復帰させる試験を実施し、技術確立を図ります。これらにより、アカモズの野生個体群が安定的に存続可能な状況に達することを、生息域外保全の観点から支援します。



報道発表資料

令和8年10月07日

参考

アカモズ (*Lanius cristatus superciliosus*) : アカモズはアジアに広く生息しているが、本亜種は日本のみで繁殖し東南アジアで越冬する渡り鳥であり、環境省レッドリストで絶滅危惧 IA 類に選定され、種の保存法において国内希少野生動植物種に指定されている。本州個体群については、2026 年に個体数が大きく減少し、依然として極めて危機的状況が続いている。

○長野県におけるアカモズの繁殖つがい数（繁殖モニタリングにおける確認数）

2022 年 45 つがい

2023 年 39 つがい

2024 年 41 つがい

2025 年 43 つがい

2026 年 30 つがい

○日本国内におけるアカモズの飼育個体数（2026 年 9 月 25 日時点）

豊橋総合動植物公園 16 羽

飯田市立動物園 2 羽

野生生物生息域外保全センター 7 羽

合計 25 羽

- ・本事業は、JSPS 科研費（24K08959）、環境省生物多様性保全推進交付金、MUFG 生物多様性保全研究助成、日本動物園水族館協会野生動物保護募金、東京動物園協会野生生物保全基金、サントリー世界愛鳥基金の助成及び人間環境大学奨学寄附金、田中亜美様からのご支援等を用いて実施しています。
- ・全ての活動は、環境省および地方公共団体による許認可のもと、関係法令を遵守して実施しています。
- ・繁殖地におけるアカモズの取材は、本種の絶滅を招く要因となる恐れがあります。そのため、本種の保護の観点から、日本国内の生息地については非公開とさせていただきます。



いのち・こころ・環境の未来を創造する大学

人間環境大学

UNIVERSITY OF HUMAN ENVIRONMENTS

報道発表資料

令和8年10月07日

写真・動画

※動画及び写真の著作権は人間環境大学岡久研究室、豊橋総合動植物公園が有します。報道目的に限り、写真および動画をご提供させていただきますので個別にお問い合わせください。



孵化したアカモズのヒナ



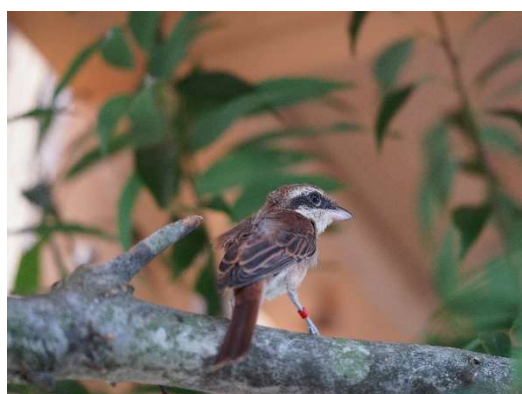
アカモズの人工育雛の様子



アカモズの人工育雛の様子



巣立ったアカモズのヒナ



長野県で訓練しているアカモズの様子



放鳥後のアカモズ